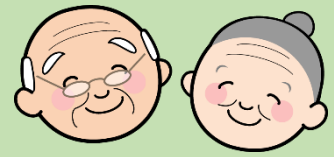


令和4年度第2回初級講習会



報告



令和4年度、第2回初級講習会を、11月9日（水）、10日（木）、11日（金）、11月17日（木）、18日（金）、19日（土）の6日間開催しました。各先生方からは援助の現場ですぐに役立つ内容を講義いただき、充実した講習会になりました。参加者は、講習会を通して、提供会員として活動するための基礎的な知識や技能を身に付けようと熱心に受講されました。

講習会の様子



保育のこころ

松山市保育・幼稚園課

野本 智恵 先生 松浦 ゆかり 先生

子どもの年齢別の発達度合や、発達に応じた対応方法について詳しくご説明いただきました。

【受講者の声】

- ・「子どもを否定しない」ができていなかったと反省しました。
- ・0歳児～6歳児までの発達について「からだ」「こころ」「生活」「社会性」「ことば・知的な発達」とカテゴリーに分けてきちんと確認できたのでよい復習の機会になりました。私の時と今のママたちの子育ての違いは特に勉強になりました。

子どもの遊び

松山市保育・幼稚園課

野本 智恵 先生 松浦 ゆかり 先生

子どもの成長に合わせた遊びの紹介や、牛乳パックや新聞紙などの身近にある物で簡単に作れて楽しく遊べるパペットやおもちゃの制作実習等を行いました。

【受講者の声】

- ・廃材を利用したの楽しいおもちゃに感激しました。風車作り久々に工作をして童心に帰り楽しかったです。
- ・先生に「いないいないばあっ！」の絵本を読んでもらいました。先生の読み方が大変上手で、つい引き込まれてワクワクしながら聞いてしまいました。自分が子どもをあずかった時はこんな風な気持ちを思い出して読みたいと思いました。

子どもの心の発達とその問題 |

えひめ子育てサポートラボほっこりん

主宰 玉井 利江 先生

子どもの心の発達段階に応じた対応方法やコミュニケーションの取り方をご講義いただきました。また、子どものできている当たり前の行動に注目して認めてほめる手法も教えていただきました。

【受講者の声】

- ・まず自分を大切に、その上で相手を大切にすることの大切さを改めて心に刻むことができました。子育てをしていた当時、否定的なことを子どもに伝えていたことを今更ですが反省しました。
- ・傾聴の大切さをしっかりと理解できました。自分が困っているとき、うれしい時の「わたしメッセージ」まずは自分からという視点も今後のファミサポの活動にも活かしていきたいです。

身体の発育と病気

石丸小児科
院長 中野 省三 先生

子どもの発熱時や、痙攣を起こしたときの対応を医師ならではの観点で教えていただきました。また、今関心の高い感染症についても多くの種類の感染症について教えていただきました。

【受講者の声】

- 感染症について忘れていたことをしっかり確認できました。とくに熱性けいれんについては、しっかりと確認できたのでよかったです。
- 過去の育児中、間違っていたことをしていたと思いました。急いで間違った判断をせず見守ることの大切さも知りました。

看護の基礎知識

日本赤十字社 愛媛県支部
事業推進課 福祉係長 鶴久森 陽子 先生

心疾患、脳卒中、熱中症などのときの症状と処置のしかたを教えていただきました。また、子どもの家庭内での事故防止のポイントや誤飲・誤嚥時の対応方法も学ぶことができました。

【受講者の声】

- 深い経験から話してくださる症状や予防策などで、とても実践的でわかり易かったです。いざという時にどうすればいいか、普段から考えて行動できるようにしておかなければならないと思いました。
- 認知症が病気であることを知らなかったため勉強になりました。また、高齢者は薬が体内に残りやすいことなど知らなかったため覚えておこうと思いました。

子どもの栄養と食生活

株式会社ヘルシープラネット
管理栄養士 今川 弥生 先生

成長期の子どもの栄養について幅広く教えていただきました。偏食と好き嫌いは別で、好き嫌いはあってもよいことも知りました。離乳期の食事の介助のポイントや注意点を月齢に応じてわかりやすくご講義いただきました。

【受講者の声】

- 「間食は待ち遠しい物でないといけない」「一緒に食べることの大切さ」「嫌いな食べ物は自分で調理させてみる」といった心と栄養のつながりを学びました。とても為になるおもしろい講義でした。
- 離乳食の与え方、偏食に対する考え方、好き嫌いをなくす工夫などのお話おもしろく参考になりました。それぞれのご家庭の事情を把握しながら食の大切さをサポートするうえでも考えていきたいと思えます。

安全・事故・救命講習

日本赤十字社 愛媛県支部
事業推進課長 平野 昇 先生

心肺停止状態などで、心肺蘇生が必要な傷病者に対する一次救命処置である「胸部圧迫」と「AEDを用いた除細動」の仕方についてご講義いただきました。人形や器具を用いて何度も何度も繰り返して実習しました。

【受講者の声】

- 救命処置の手法を身に付けることができ、いざという時の心構えができました。
- 実質的な講習で実際のやり方も一人一人体で準備して頂きとてもわかり易かったです。今まで同様の講習を何回も受けましたが初めて実際にやる自信が付きました。

子どもの世話

愛媛県立医療技術大学
看護学科 教授 豊田 ゆかり 先生

子どもの呼吸・消化吸収・排泄・体温調節などの生命維持のしくみと、世話をする上でのポイントを分かりやすくご講義いただきました。

【受講者の声】

- 乳児期の消化吸収機能、免疫機能、排せつ機能の発達の仕方や乳児の呼吸器系の特徴や気を付ける事について医学的な話で興味深かったです。
- 子どもの成長に伴いその時点で価値観が変わってきていることを聴きよく理解できました。大人の都合で物事を進めないということは大切なことだと改めて知ることができました。

子どもの心の発達とその問題Ⅱ

児童発達支援センターあゆみ学園
児童発達支援管理責任者 今村 高博 先生

特別な配慮が必要な子どもへの対応について、実例に基づいて具体的に教えていただきました。

【受講者の声】

- 私は子どもの障がいについて一番知りたいし、助けになりたいと常々思っています。たくさん障がいのある人々と関わって障がいのある人々の側に立つ今村先生のお話は納得のいく事がたくさんありました。問題があるのは私達であり、知識、経験を深める努力をしたいと思います。
- 障がいのある子ども、自閉症、ADHD等よく聞くイメージはありますが、身体的にどういう特性があってどう接すればよいかよく解らなかったのでお話を聞いてよかったです。

介護のこころ

今治明德短期大学 講師
介護福祉士 杉本 詠二 先生

高齢者、特に認知症の方への関わり方について、高齢者からの目線でユーモアを交えながらご説明していただきました。

【受講者の声】

- ・認知症になると、感情（プラスの心・マイナスの心、嬉しい・悲しい等）が10倍くらい感じるようになる事、まわりの人の対応で症状や心がよくなる事が理解できました。わかりやすく為になる授業でした。
- ・とても勉強になりました！認知症の人の心の中の状態がよく理解できました。「笑顔は伝染する」私も実父と義母が今現在認知症なのでやさしく声をかけてあげようと思います。

事業を円滑に進めるために（修了式）

まつやまファミリー・サポート・センター
アドバイザー

ファミリー・サポート・センターの意義やしくみ、また、提供会員としての心構えや援助の仕方および事務などについて学びました。井藤館長の終講挨拶のあと会員証を交付し、参加者は今後の援助活動に対する希望にあふれていました。

【受講者の声】

- ・初めての事なので、どんな事ができるんだろう？私にできるかな？と少し不安もありましたができる事を無理せずやれば良いとおっしゃって頂いて安心しました。
- ・ルールと決まりのおかげで無理せずに提供とお願いができてありがたいしくみだと思います。



参加者

6日間 11講座 延べ 198人



提供会員資格取得

育児・介護両方	9名
育児のみ	5名
介護のみ	4名

熱心にご受講いただきありがとうございました

